

皇宮神社

皇宮神社は近くにある宮崎神宮が運営しており、宮崎神宮と同じく、日本の初代天皇、神武天皇と密接なつながりを持っています。神社が建つ丘は何世紀にもわたって、現在宮崎市となっている土地の中でも重要な場所でした。洪水、地震、その他の自然災害に対して比較的安全であると考えられていたため、江戸時代（1603～1867）には延岡藩の大名藩主の邸宅がありました。ここに最初の神社がいつ建てられたかは不明ですが、天皇崇拝が復活し、日本の古代神話への関心が高まるにつれ、江戸時代の終わりまでに、この丘には神武天皇の皇居があったと宣言されました。神武天皇はこの宮殿から東征し、現在の奈良県に政権を樹立して、天皇と宣言されました。

1868年の明治維新後、明治天皇（1852-1912）は、天皇家の起源に触れる古代神話や伝説に関連した場所での参拝や、その維持管理を奨励しました。神武天皇と妻である吾平津媛、そして息子2人を祀る皇宮神社は、1934年に拡張され、戦時中の天皇崇拝の最盛期だった1940年には、神武天皇の軍が東征した場所を示す、巨大な石碑が参道近くに建てられました。神社自体は、1976年に現在の場所に再建されました。